

# 校内研究活性化プロジェクト研究通信

第1号 令和5年(2023年)5月29日発行

過ぎ行く春が惜まれる頃となりました。先日は第2回プロジェクト研究会に御参加いただきありがとうございました。今回のプロジェクト研究会でも、校内研究を通して子どもたちを育てていきたいという研究委員のみなさんの熱意がひしひしと伝わってきました。さて、校内研究活性化プロジェクト研究通信(以下、プロ研通信)では、研究会での学びを研究委員の先生方のみならず、より多くの先生方と共有したいという思いでまとめていきたいと思っております。この通信が研究委員のみなさんの振り返りになるだけでなく、実践校のみなさんの校内研究推進の一助となれることを願っています。

## 第1回 プロジェクト研究会 概要

第1回のプロジェクト研究会は、「研究の目標を共有し、校内研究活性化のヒントをつかむ」をめあてに、研究委員のみなさんと「新たな教師の学びの姿」の実現に向かう校内研究を活性化させる研究の第一歩を踏み出しました。

## 「新たな教師の学びの姿」とは?

- 変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという

### 「主体的な姿勢」

- 求められる知識技能が変わっていくことを意識した

### 「継続的な学び」

- 新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した

### 「個別最適な学び」

- 他者との対話や振り返りの機会を確保した

### 「協働的な学び」

『『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等 の在り方について』

(中央教育審議会答申)



これら四つの姿を合わせた姿が「新たな教師の学びの姿」です。

校内研究を通して、先生方が自分のニーズに応じて主体的に学び、「新たな教師の学びの姿」を実現することで授業の質が向上し、子どもたちの成長につながっていく…そのような校内研究を、今年度の滋賀県総合教育センターのプロジェクト研究を通して実践校のみなさんと共に実現していきたいと思っております。

## 第1回プロジェクト研究会の研究委員のみなさんの振り返りより(一部抜粋)

- ・まず、「なりたい自己」について考える時間を設けたい。校内研究は難しく、失敗してはいけないという雰囲気を取り除けるように、グループ作りや研究の場の設定を見直したい。
- ・一人ひとりの最適な学びは、子どもだけでなく教師にも大切だという新たな視点がもたらえてとてもよかったです。

### 第2回 プロジェクト研究会 概要

第2回のプロジェクト研究会は、校内研究主任パワーアップ研修〔小学校・中学校〕〔第1回〕に参加するという形で行いました。研究委員のみなさんには、前半と後半で会場を移動していただき、自校の校内研究についてより詳しく分析、考察していただきました。

### 13:30～ 校内研究主任パワーアップ研修に研究メンバーも参加!

初めに、SWOT分析の手法を用いて、自校の校内研究を分析されました。受講者は、自校の強み・弱みについて具体的に記述し、その後の協議でも主体的に交流しておられました。

次に、令和4年度校内研究活性化プロジェクト研究の発表を通して、児童生徒一人ひとりの確かな学力の向上につながる校内研究について学びました。校内研究における「共通理解・共通実践」の具体的な実践事例を知り、自校での取組に生かす手立てを考えました。



校内研究主任パワーアップ研修〔小学校・中学校〕〔第1回〕の様子

### 14:45～ 第2回プロジェクト研究会のみ別室に移動して実施



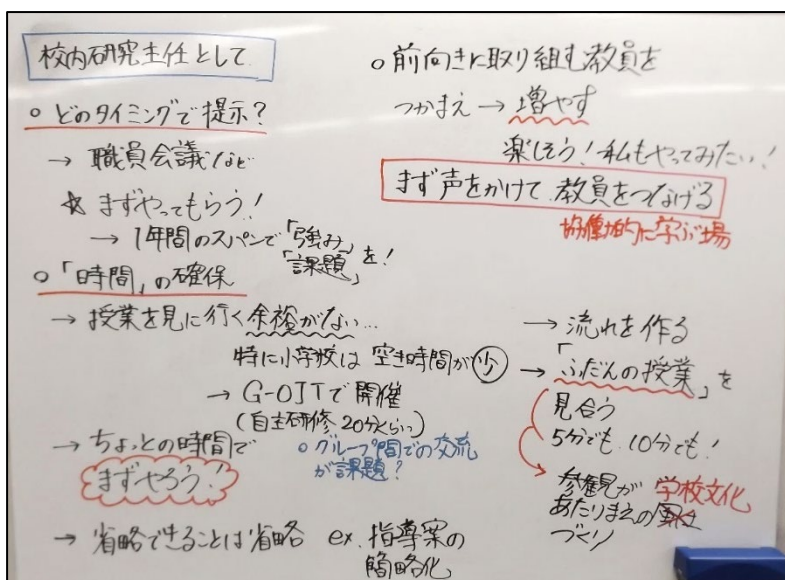
プロジェクト研究会にてSWOT分析をする様子

後半は、別室に移動後、今度は「新たな教師の学びの姿」という視点で改めてSWOT分析の手法を用い、各校の先生方を思い浮かべながら分析をされました。その後、クロスSWOT分析の手法を用い、各校の課題について、具体的な解決策を見いだせるように取り組みました。その中で、共通の課題として、“研究の進め方の共有”と“参観や指導案検討の時間の確保”が挙げられました。そのことについて、5名の研究委員のみなさんで協議された結果、以下の通り、具体的な手立てをいくつか見いだされました。

### 「研究の進め方の共有」と「参観や指導案検討の時間の確保」に向けて

- ・小・中学校ともに、職員会議で5～10分の時間をとることで、校内研究に関わる共通理解を図る。
  - 共通理解が図れたら、まずはやってみることが重要。短期、中期、長期の目標を立てて計画的に!
- ・G-OJTはグループリーダーに運営を任せることで、ちょっとした隙間時間に集まることも可能になる。
  - 時間の有効活用は大切。全体会のみが校内研究ではない。
- ・小学校では、テストの時間を活用することで、短時間でもお互いの授業を参観できる。
  - 各学校の実情に合わせて、授業を参観し合うことが当たり前の学校文化を作る。

〈協議の様子を記録したホワイトボードの写真〉



(研究委員の先生の振り返りより)  
 本校だけでなく、どこの学校も「時間の確保」と「研究の方法やタイミング」が課題になっています。だから、校内研究そのものの取り組み方を考えていく必要があると気付くことができました。



## SWOT 分析・クロス SWOT 分析とは?

SWOT分析	
目的：本校の校内研究が「新たな教師の学びの姿」の実現に向かう校内研究となるようにする。	
内部環境	外部環境
<p><b>Strength (強み)</b>                      Strength (強み) : 本校の長所や得意とするところ。内部環境のプラス要素。</p>	<p><b>Weakness (弱み)</b>                      Weakness (弱み) : 本校の短所や苦手とするところ。悪影響を及ぼすと考えられる内部環境のマイナス要素。</p>
<p><b>Opportunity (機会)</b>                      Opportunity (機会) : 社会や教育環境の変化などにより、プラスに働く外部環境のプラス要素。</p>	<p><b>Threat (脅威)</b>                      Threat (脅威) : 社会や教育環境の変化などにより、悪影響を及ぼすと考えられる外部環境のマイナス要素。</p>

クロスSWOT分析	
目的：「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて具体的な計画を立てる。	
	<p><b>Strength (強み)</b></p>
<p><b>Opportunity (機会)</b></p>	<p><b>Weakness (弱み)</b></p>
<p><b>Threat (脅威)</b></p>	<p><b>Threat (脅威)</b></p>

SWOT分析とは、マーケティング戦略立案において、初期段階の環境分析に使われることの多いビジネスフレームワークで、SWOTはStrength (強み)、Weakness (弱み)、Opportunity (機会)、Threat (脅威)の4要素から構成されています。SWOT分析では、上記4要素のうち横軸を「内部環境」と「外部環境」、縦軸を「プラス要因」と「マイナス要因」として分析します。この分析方法は学校現場における環境分析にも応用することができ、今回は研究委員のみなさんに本校の校内研究を「新たな教師の学びの姿」の視点から分析していただきました。

SWOT分析をさらに派生させたクロスSWOT分析では、4要素をそれぞれかけ合わせ、具体的な取組について検討をします。

〈研究委員の先生の振り返りより〉



本校のSWOT分析をして、改めて課題と改善点を自覚することができました。

SWOT分析から課題を把握し、研究につなげていきたいと思えます。





各校の強みや課題を十分に分析するには時間が足りなかったと思いますが、限られた時間の中でも研究委員のみなさんは現状を冷静に分析し、自校の強みや課題を発見されていました。学校に戻って様々な視点から改めて分析していただくことで、さらに具体的に自校の強みと課題を把握することができ、「新たな教師の学びの姿」の実現を通じた授業改善、さらには、子どもたちの学ぶ力の向上につながると考えます。センターから提案させていただいている「授業アップデートシート」を活用いただき、先生方が御自身の強みや課題を捉えることで、教師の「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実につなげていただければと思っております。

## 第2回プロジェクト研究会の研究委員のみなさんの振り返りより(一部抜粋)

### (1)13:30~14:45 校内研究主任パワーアップ研修で学んだこと

- ・同規模の学校の先生との交流だったので、子どものこと、教員のことなど、悩みも共通していて、ためになりました。もっと時間が欲しかったです。
- ・研究発表の昨年度の実践がすごく参考になるなと思いました。できることから取り入れていきたいと思えます。

### (2)14:45~16:30 第2回プロジェクト研究会で学んだこと

- ・限られた時間の中で、いかに教職員にとって有意義な時間にするかが今後の校内研究をするうえで大事な要素の一つだと感じました。
- ・悩んでいることは、他の学校でも同じだなと感じました。深く議論ができて新たな視点をもらいました。時間の確保については、今後も考えていきたいです。
- ・研究委員のみなさんの校内研究の進め方はいつも勉強になります。参考にして進めたいと思えます。
- ・与えられた時間の中で、できることをしっかりとしたいと思えます。どの学校も同じ課題があるということが共有できたので、それを改善していこうという気になりましたが、こういう時間を校内でもとっていく必要があるなと思いました。

### (3)「新たな教師の学びの姿」が達成できた場面

- ・様々な教員の方と協働的に学ぶことができ、自校ではどのような取組ができるか、個別最適に考えることができました。
- ・校内研究を活性化させ、子どもたちが楽しく学校生活を送ってもらえることが最大の目標であり、そのための手立て、新たな視点をいつも研究会でもらえるので、本当に勉強になります。
- ・自身の課題を見つめながら、解決への糸口を見つけるために、協議を進めていけたと思えます。継続的な学びが課題だと思うので、学校に戻ったらすぐ実践したいと思えます。
- ・校内研究で抱える悩みを改善するために研究委員の先生方に質問をしたり、自校の研究の現状を再確認したりした場面は、新たな学びの姿となっていたのではないかと思います。
- ・6月から本格的にスタートする校内研究の中で、校内の先生方がより取り組みやすく、学びたい!やりたい!と思ってもらえるように、準備したいという意識を交流の中で高め、研究発表を聞くことでアイデアをいただいた。



各校の課題を解決するために協働的に学ぶ様子

(4)校内研究主任パワーアップ研修[小学校・中学校][第1回]および第2回プロジェクト研究会での学びを、自校の校内研究会でどのように生かしたいか

- ・6月は G-OJT での公開授業を控えているので、それが実現し、意味のあるものにするためにこちらから仕組んでいきたいと思いました。
- ・学校での研究に対する雰囲気づくりをしていきたいです。授業に対して「お互いに見合うことが当たり前」「放課後に話し合うのが当たり前」の雰囲気にしていきたいです。
- ・まず、アップデートシートを使ってもらい、1年間かけて作り上げ、来年につながるようにする。授業を積極的に見に行き、仲間を増やす…ことから始めたい。

(5)研修および研究会について、お気付きの点がありましたら記入してください。

- ・もっと話す、聞く時間が欲しいです。一日学校をあけるのは厳しいですが。

## 第2回プロジェクト研究会を終えて、研究員の思いと今後に向けて

今回は、「研究委員のみなさんが校内研究で取り組む内容をより具体的にするため、協働的な学びの場を提供する」を目標に研究会を企画しました。この目標に向かい、SWOT分析を通して各校の具体的な課題を表出していただくことができました。その解決に向けて話し合う時間を設定できた点は、今回の研究会の成果だと感じています。研究委員のみなさんが、第1回の時よりもさらに自分事として課題解決に向けて熱心に協議され、この研究メンバーで協働的な学びを実現させることができました。

研究会で話題となった内容について、研究委員のみなさんのそれぞれの思いや各校での課題、校内研究の運営方法などを日常的に交流できる場やツールが欲しいという意見が複数の研究委員の先生からあがりました。ある研究委員の先生は、「昨年度パソコンを使って校内での学びの場を提供しようと試みたが、利便性が悪く持続的な取組にできなかった。スマホを活用すればもう少しうまくいったのだろうか」という経験談を話してくださいました。この話を受けて、それぞれの教員が時間を有効に活用できる学びの場が求められており、校内研究活性化プロジェクト研究としてもよりよい解決策を模索していきたいと考えています。

一方で、研究会の進行という視点から振り返ってみると、研究員が話題の焦点化を的確に行うことができているれば、さらに具体的な取組案まで話を展開させることができたのではないかと反省しています。次回以降の研究会では、各校の校内研究の現状を把握しつつ、研究委員のみなさんが互いに学び合えるような研修と、各校の実践により具体的につなげていただけるような研究会にしていきたいと思います。

これから、各校で授業研究会等が始まっていくと思います。日々の校内研究の進め方、授業研究会の持ち方など、必要な時はいつでも駆けつけます。お気軽にお声掛けください！



研究員 いなます けいご 稲益 圭吾



研究員 しまうち ゆうしょう 島内 佑祥